《 父の日に寄せて 》

兄弟がいる子どもは野球がうまくなる!?

動物は走ったり、跳んだりすることができるが、狙ったところにボールを投げたり、投げられたボールをバットで打ったりして楽しむのは人間だけだ。すなわち、学術的にも投球や打撃動作は、走・跳動作よりも後天的に習得が可能と考えられている。言い換えれば、家族や生まれ育った地域などの環境要因が、投げる・打つ動作の巧みさに影響しやすいということである。

◇◆◇ 兄弟がいる子どもはボール投げが得意 ◇◆◇

赤ちゃんは生後４か月くらいから物をつかみ、投げる（離す）ことができる。その後、６歳くらいまでに大人に近い投球動作に発達が可能である。ただし、それはボール投げを日常的に繰り返して行っていた場合であり、投球動作の発達は個人差や性差が大きい。

ボール投げ遊びの定番であったキャッチボール。最近ではキャッチボールをやったことがない子どもの割合が多くなってきた印象がある。一方、兄弟がいる子どもは性別を問わず、キャッチボール遊びをしている場合が多い。小学生野球選手を対象に兄弟構成を調査したところ、地域の選抜チームに選ばれた選手は、一般の野球選手よりも兄や弟がいる割合が高かった。家庭内にボール投げ遊びをする相手がいることが野球競技力に影響するということである。

◇◆◇ 野球少年・少女の親は元野球選手 ◇◆◇

兄弟構成と同様に影響が大きいのが両親である。野球普及イベントに参加した親子に「父親または母親の野球・ソフトボール経験率（部活動などの定期的な経験）」を調査した。

少年団に入団していない子どもの親では 40%以下であったのに対して、少年団などの野球チームに所属している小学生では約 70%と高い値であった。「野球選手の子は野球選手」である。一般選手の競技開始年齢は平均８．３歳、小学１年生以下で野球を開始した選手の割合は 44%である。小学生の地域選抜チームに選ばれた選手は、競技開始年齢が平均７．７歳、小学１年生以下で野球を開始した選手の割合は 59%であり、一般小学生野球選手よりも野球を早期に開始している。

◇◆◇ 野球遊びができる場所は減少傾向 ◇◆◇

プロ野球チームの数は国内に 12 球団ある。チームがある地域ではプロ野球に触れる機会も多くなる。同様に、高校野球が盛んで甲子園大会で優勝を争うことが多い都道府県では、子どもたちも「お兄さんたちのように‥」と言って、野球遊びをする機会も多くなる。地域によって違いはあるが、危険な遊びとしてボールやバットの使用が禁止されているところが昔よりも多くなった印象がある。一方、東京都千代田区、世田谷区のように条例を設けて、子どもたちの遊び場を確保しようとする自治体もある。今後、このような政策の有無が運動能力、特に投球、打撃能力の地域間差に繋がることが予想される。

＜ 東京農業大学准教授　勝亦 陽一 ＞